

令和5年度第1回伊勢市まち・ひと・しごと創生会議 議事要録

◆日時 令和5年7月25日（火）19：00～20：30

◆会場 伊勢市生涯学習センターいせトピア 3階 研修室1・2

◆出席委員

齋藤 平委員、山川 一子委員、三浦 徹委員、河井 英利委員、福村 伝史委員、中村 基記委員、横田 由美委員、江崎 徹委員、原 幸久委員、北村 和也委員、木下 豊委員、松山 哲平委員、秋山 則子委員

◆欠席委員

林 雅哉委員、安藤 大作委員

◆出席職員

情報戦略局【情報戦略局長、情報戦略局次長、企画調整課長、同副参事、同主事2名、デジタル政策課長】

環境生活部【市民交流課長、市民交流課副参事】

教育委員会【学校教育課長、教育研究所長】

健康福祉部【参事兼福祉総合支援センター長、福祉総合支援センター副参事、健康課長、保育課長、子育て応援課長、こども発達支援室長、高齢・障がい福祉課長】

産業観光部【商工労政課長、農林水産課長、同課副参事、観光振興課長、観光誘客課長】

都市整備部【参事兼都市計画課長、住宅政策課長、交通政策課長】

◆傍聴者 1名

◆結果概要

(1) 諮問

(2) 第2期伊勢市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進行管理について
・各委員からの意見等及び市の回答は次のとおり。

基本目標① 安定した雇用を創出する

■全般

・最近では業種に限らず人手不足で困っているという声が多い一方、学生も含め就労したい方からは、地元で「働く場がない」というような声も出る。ミスマッチの原因を調査し解決することが、人材確保につながると考える。

■基本的方向① 地域資源を活かした産業の振興及び新産業の創出

・創業支援について支給件数が増えているが、どのような業種が多いのか、支給したことにより雇用は創出できているのか。

⇒業種については飲食業や理美容業が多い。また、補助先を決定するための事業計画の審査に

おいては、地域への貢献があるかについても評価しており、雇用の創出につながっているものと考えている。

- ・工場等誘致奨励事業において、雇用奨励金は市内の人が雇用された場合に交付されるのか。この事業で、伊勢への移住は増えるのか。

⇒雇用奨励金については、市内在住の方を雇用した場合に支出している。移住者かどうかの確認まではしていないため人口増に寄与しているかは確認できないが、転出防止には寄与していると思う。

- ・E C販路開拓支援について、新型コロナによって観光業が相当なダメージを受けた中で、違う販路を作っていくことは非常に意義のあることだと思うが、見てもらうことが目標ではなく、実際にどれだけ消費してもらうかということまで考えていかないと、自己満足の施策になってしまうと思う。細かな売り上げの状況を把握することは難しいと思うが、各店舗に売り上げ状況のアンケート調査を行うのも一つ。この件にかかわらず、全体的にもう一步踏み込んで考えていってほしい。

■基本的方向② 職業として選択できる魅力ある農林水産業の実現

- ・雇用の創出となっているが、独り立ちへの支援を行うなど受け皿を用意してはいるが、働き手(担い手)が少ないことに困っている。どうしたら、地元で働いてもらえるのかが課題と感じる。

基本目標② 伊勢への新しいひとの流れをつくる

■基本的方向 ①観光誘客の推進

- ・コロナ以前から観光では神宮参拝者数が目標値となっていることが多いが、参拝者数が増えたことによって、消費が起こって地域経済へどんな効果があったのかが重要である。遷宮時のようにオーバーツーリズムによる渋滞やゴミの問題等も出てくる。国内の人口減少の進行やインバウンドにそれほど強くない中で、たくさんの人に来てもらうことを指標に考えるのではなく、ターゲットを絞ってマーケティングをしていく必要がある。

■基本的方向 ②移住の推進

- ・人口増には移住が効果的と思う。資料の中で伊勢への移住者が30人とあるがそれは多いのか少ないのか、また、伊勢の特色を生かした移住施策はあるのか聞きたい。三重県の人口の流れは今までも南勢から北西という状況で、その流れを変えられたらいいと思う。

⇒移住者については、空き家バンクや創業移転促進補助金など市の移住関連制度を利用して転入された方をカウントしている。移住される方のニーズもそれぞれ違うので、市では移住セミナーに参加して、暮らしに関する情報などを発信し、市への移住のPRを実施している。

■基本的方向 ③教育機関との連携及び若者の定着促進

- ・大学から伊勢志摩圏域内の企業への就職者数の数値も出ているが、今の学生の動向としては伊勢で働きたいけど働く企業がないから転出していくのか、そもそも県外へ出ていきたいのか。
- ・皇學館大学は全学生の約7割が県内出身者であり、就職時に県外へ出ていきたいと考えている学生も一定数いるが、将来の就職先も県内で就職したいという希望を持っている。地域の企業や自治体と連携して学生が課題と一緒に取り組む活動を行うことにより、地元で働くことを具体的にイメージ出来るようになり、活動先で就職する学生の比率も非常に高い。
- ・これからの若い子たちに審議会や委員会に入ってもらうように行政が本気で取り組んだ方がいいと思う。そうすることで、「自分たちのまちを自分たちで作っていく」ということを感じて、地元で就職しようと思うことにつながると思う。
- ・県でも、市でも病院では奨学金を出して、卒業後一定期間は病院で働いてもらうという制度がある。難しいとは思いますが、一般の大学生に対しても同じような制度があれば、人手不足で新規採用者がなかなか採用できない状況である中、少しは効果があるのではないかなと思う。
- ・宇治山田商業高校では、3年生の約8割が進学希望で、去年も卒業生200人のうち就職希望は50人程度であった。ただ、企業や行政と連携して一緒に学ぶなど様々な機会の中で、地元の魅力を感じてくれる生徒はたくさんいる。今後も、自分たちが地域に貢献できるとか、求められていることを感じる場面を増やすため、様々な取り組みで連携をお願いしたい。

基本目標 ③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

■基本的方向 ①結婚・妊娠・出産・子育てに対する切れ目のない支援

- ・全国的に産科医不足が深刻な状況で、伊勢は市内に個人の産科医がいくつかあり、恵まれた状況である。ただ、それがなくなってしまうと深刻な問題になりかねないので、注意深く見守っていく必要がある。
- ・昔は母親あるいは、祖父母を含めて家族で育児をする形ができていたと思うが、現在では共働きや核家族世帯の増加によりそういった形は難しい。そのため、保育園や託児所など、働く母親が安心して子供を預けられ仕組みができていることが非常に大事だと思う。伊勢市も、もっと大胆な子育て支援を充実させれば、人口減少や少子化対策になると思う。
- ・学区内に学童保育がなかったら働けない。女性活躍というのであれば学童保育の充実は保育所と同じくらい必須だと思う。

■基本的方向 ②教育の充実

- ・教育用コンピューターを整備することが目的ではなく、それを活用してどんな力を身につけさせるのかが問われてくると思うが、学校の先生は、非常に多忙になっている反面、不足している状況である。目標を達成するために、教育現場への支援も必要である。

基本目標 ④暮らしやすい生活圏をつくる

■基本的方向 ③地域コミュニティの活動促進

- ・地域活動に参加したい市民の割合が増えない状況が記載されているが、自治会に未加入の方もたくさんおり、コロナの影響のせいか、横のつながりができない。また、70歳ぐらいまで仕事をする方が多く、仕事があるため役員はできないと断られることも多いとの声や、新しい担い手が増えないため、新たな活動をしにくいといった声がある。新たな方に担ってもらえるようにして地域活動の活性化を図りつつ、役員の会議等はデジタル化を進めて仕事をしている人でもできるようにしていきたい。
- ・防災関連で東北に視察に行った際に聞いた話では、普段から住民の関係性がある地域は復興が早いとのことであった。いつかは災害がくると思うので、復興の観点からも地域住民のつながりは非常に大切だと思う。

(3) 意見交換

- ・働く場と人手不足のミスマッチについては、分析が難しい。求職者の重視する点が賃金だけでなく、福利厚生や休みなど多岐にわたっていたり、求職活動の始め方がわからないといった人もおり、多様なニーズにどう対応していくかが課題と感じている。
- ・就職希望者は賃金よりも雇用形態を重視する傾向がみられるため、充実させることを重要課題として行政と一緒に取り組んでいきたい。コロナも明けて伊勢市駅前の再開発も進める中で、近隣の商店街にも人の流れができるように力をいれてもらいたい。
- ・今回の進行管理表は、実施したこと、数値の結果の記載が多いが、なぜ数値が変動したのかなどの分析があまり書かれていないため、どのように意見していいかわからなかった。次回作成するときは、改善していただければと思う。
- ・昔は外国人旅行者といえば東京、大阪、京都が3大都市であったが、今では日本人でも知らないような田舎にも来るようになっている。それはアニメの聖地巡礼がきっかけで、世界中のファンが来るようになったことが一つの要因であり、そういった起爆剤になるようなものが、市にもあるといいのかなと思う。
- ・世の中が求めていることは、年代を問わず「共感」がキーワードだと感じている。伊勢でこのような仕事をすればこのような人生が送れるし、このような楽しみがある、というようなことを伝え、共感を得られれば若い方にも、この町で働こうと思ってもらえるのではないかなと思う。
- ・資料1の進行管理表(33頁)に、「男女共同参画が進んでいる」と書かれているが、まだまだである。地域や企業でロールモデルになっていただける女性がいればぜひ紹介してほしい。